

## **骨格筋/内蔵脂肪比が肝細胞癌に対する生体肝移植後の予後に与える影響の研究**

### **・はじめに**

我々は骨格筋の減少（サルコペニア）を来した患者さんは、肝臓移植や肝細胞癌に対する肝切除などの肝臓外科領域において術後の成績が悪くなることを報告してきました（Masuda T, et al. Liver transplant 2014;20:401-7. Harimoto N et al. Br J Surg 2013;100:1523-30, Itoh S et al. Ann Surg Oncol 2014;21:3063-8）。また、肝細胞癌に対する肝切除で内蔵脂肪と術後成績についての関係も明らかにしました（Itoh S et al. Ann Surg Oncol 2014;21:3063-8）。近年、サルコペニアと肥満が併存したサルコペニア肥満が癌領域において極めて術後の成績を悪くする要素であることが報告されています（Prado CM et al. Lancet Oncol 2008;9:629-35）。そこで肝細胞癌に対する生体肝移植を行う患者さんの術前画像から骨格筋と内蔵脂肪を測定してサルコペニア肥満を評価することで生体肝移植の成績を改善できるのではないかと考えています。

### **・目的**

この研究では術前の CT 画像を用いて、骨格筋/内蔵脂肪比を測定し、骨格筋/内蔵脂肪比が肝細胞癌の肝切除術後の治療成績に与える影響を明らかにします。

### **・対象**

平成 13 年 8 月 1 日～平成 24 年 11 月 30 日の期間に肝細胞癌に対して生体肝移植を受けられた患者さんのうち、術前に造影 CT を施行した 160 例を対象とします。

対象者となることを希望されない方は、下記連絡先までご連絡下さい。

### **・研究内容**

上記患者さんの臨床データから、年齢、性別、身長、体重、BMI、術前後の血液検査データ(HCV 抗体、好中球数、リンパ球数、総ビリルビン、AST、ALT、アルブミン、PT、血小板数、クレアチニン、AFP、PIVKA-2)、Child 分類、MELD スコア、腫瘍径、手術時間、手術術式、出血量、術後免疫抑制剤の種類、ドナー年齢、ドナー肝容積比、術後再発の有無、再発までの期間、再発形式、再発時の治療方法、生存の有無、生存期間の臨床情報を収集します。そして術前の骨格筋/内蔵脂肪比を解析して実際に術後の成績を反映しているかどうかを評価します。

この研究を行うことで患者さんに日常診療以外の余分な負担が生じることは

ありません。研究計画書および研究の方法に関する資料を希望される方は、下記連絡先までご連絡ください。

・ **個人情報の管理について**

個人情報漏洩を防ぐため、九州大学大学院医学研究院消化器・総合外科学分野においては、個人を特定できる情報を削除し、データの数字化、データファイルの暗号化などの厳格な対策を取り、第三者が個人情報を閲覧することができないようにしております。また、本研究の実施過程及びその結果の公表（学会や論文等）の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。

・ **個人情報の開示について**

結果についての開示を希望される場合は、保有する個人情報のうちご本人の情報についてのみ開示します。下記連絡先までご連絡ください。

・ **データの二次利用について**

本研究において採取した試料、得られたデータ等を将来別の研究に二次利用する可能性があります。

・ **研究期間**

研究を行う期間は承認日より平成28年3月31日まで

・ **医学上の貢献**

本研究により被験者となった患者さんが直接受けることができる利益はありませんが、将来研究成果によって骨格筋と内臓脂肪の関係が肝細胞癌の生体肝移植術後の成績に与える影響がわかり、多くの肝細胞癌患者さんの治療に貢献できる可能性が高いと考えます。

・ **研究機関**

九州大学病院

病院長 石橋 達朗（研究機関長）

九州大学大学院医学研究院消化器・総合外科学分野

教授 前原 喜彦（責任者）

准教授 調 憲

九州大学病院 肝臓・脾臓・門脈・肝移植外科

助教 伊藤 心二

九州大学大学院医学研究院 臨床放射線科学分野

講師 西江 昭弘

連絡先：〒812-8582 福岡市東区馬出 3-1-1

Tel：092-642-5479(消化器・総合外科外来)(平日 8:30～17:00)

092-642-5473(消化器・総合外科病棟)(夜間・休日)

担当：伊藤 心二